



平成25年 7月 8日

東北地方整備局 秋田港湾事務所

中部地方整備局 名古屋港湾事務所

北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所

お知らせ

我が国最大級の浚渫兼油回収船「清龍丸」「白山」 秋田県石油コンビナート等防災訓練に参加

～秋田国家石油備蓄基地での14機関参加の合同訓練の場で油回収訓練を実施～

1. 概要

7月16日(火)に独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 秋田国家石油備蓄基地(男鹿市船川港)において実施される秋田県石油コンビナート等防災訓練^(注)に、中部地方整備局の名古屋港湾事務所所属 浚渫兼油回収船「清龍丸」と北陸地方整備局の新潟港湾・空港整備事務所所属 浚渫兼油回収船「白山」が参加します。清龍丸及び白山は大量流出油事故対応を図ることを目的とした海上訓練に参加、本船搭載の油回収器による油回収訓練を行います。

また、16日の防災訓練に先立ち15日に秋田港において両船の一般公開を、さらに、「白山」は7月17日(水)に船川港でも一般公開を行います。

^(注)秋田県石油コンビナート等防災本部主催、14機関が参加

なお、「清龍丸」「白山」は、通常はそれぞれ名古屋港及び新潟港において航路等の浚渫作業を行っています。大量流出油事故が発生した場合には速やかに事故海域へ向かい油回収を行います。

平成23年3月の東日本大震災においては、清龍丸は岩手県釜石港に、白山は宮古港に緊急支援物資を届けました。

2. 日時・場所

1)訓練日時・場所 平成25年7月16日(火) 09時50分～12時10分

男鹿市船川港

(独法 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 秋田国家石油備蓄基地)

2)一般公開日時・場所

秋田港(清龍丸及び白山) 平成25年7月15日(月) 10時00分～16時00分

秋田港中島ふ頭

船川港(白山)

平成25年7月17日(水) 10時00分～16時00分

船川港7000トン岸壁

受付時間は、それぞれ10時00分～15時30分です。



3)注意事項

船内は段差が多いため、サンダルやかかとの高い靴等での乗船はご遠慮願います。

3. 配布先

秋田県政記者会

4. 問合せ先

国土交通省 東北地方整備局 秋田港湾事務所 港湾保安調査官 山崎(やまざき)

Tel 018-847-2513 Fax 018-880-1021

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所 海洋環境課 塚本(つかもと)

Tel 052-651-6791 Fax 052-651-3801

国土交通省 北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所 海務課 岩瀬(いわせ)

Tel 025-222-6111 Fax 025-227-3170

浚渫兼油回収船「清龍丸」の概要

「清龍丸」の行う業務

- 通常は、航路、泊地等の浚渫作業。
 - ・高精度で平坦浚渫を可能とする幅広い新型ドラグヘッドを装備。
- 大量油流出時には、速やかに流出現場に向かい、油回収作業。
 - ・油の状況に応じた2種類の回収器を装備。
- 災害時には、災害支援作業（災害情報収集、救援物資輸送、給水、電力供給等）。
 - ・情報収集・発信のための通信システムや防災要員・物資運搬等のためのヘリデッキを装備。

「清龍丸」の諸元

- 所属
中部地方整備局
名古屋港湾事務所
- 基地港
名古屋港 V3岸壁
- 着岸岸壁
水深 -7.5m以上
- 全長、全幅、純トン数
104m、17.4m、4,792t
- 最大速力
13.5kt（約25km/h）



低粘度油回収状況



高粘度油回収状況



ヘリ着船



給水



災害対策室兼会議室

浚渫兼油回収船「白山」の概要

平成9年1月のロシア船籍タンカー「ナホトカ号」による重油流出事故では、約6,000klものC重油が流出し、福井県沿岸をはじめとする日本海沿岸に約360億円もの甚大な被害をもたらしました。

この事故をきっかけに、流出油災害の防除体制の強化が求められ、国土交通省では、日本沿岸の油流出事故に対し、平成14年8月に「白山」を建造し、新潟港湾・空港整備事務所に配備、中部地方整備局「清龍丸」・九州地方整備局「海翔丸」・北陸地方整備局「白山」の油回収船3隻体制で48時間以内に現場に到着できる体制を整えました。

「白山」は、大型浚渫兼油回収船という名のとおり、通常は新潟西港で浚渫作業を行っていますが、大規模な油流出事故が発生した場合は、直ちに現場に急行し、油回収作業を行います。



白山(油回収訓練)

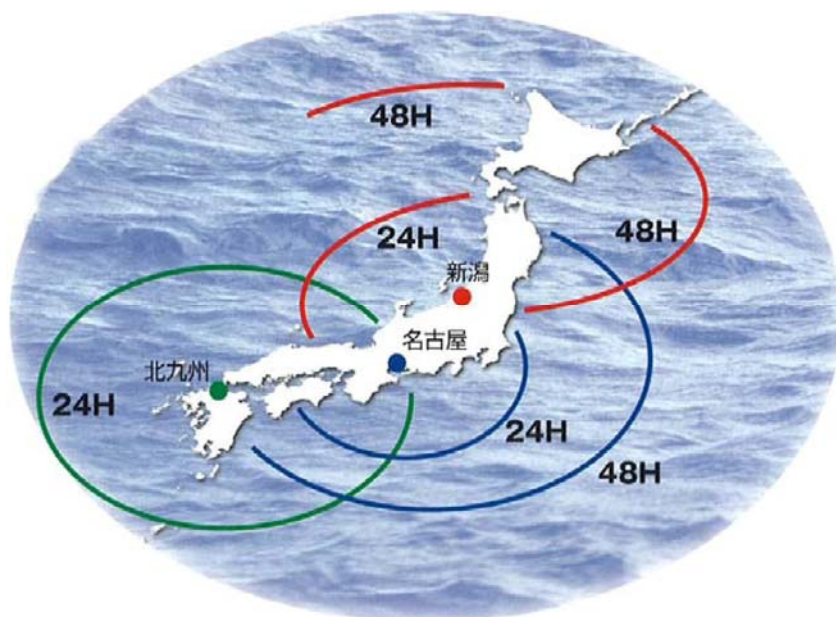
「白山」の概要

全長 93.9 m、幅 17.0 m、深さ 7.5 m
総トン数 4,184 t
航行速度 12.5kt (時速約 23km/h)
浚渫方式 サイドドラグ式
泥倉容量 1,350 m³
油回収機
舷側設置式 500 m³/h × 2 台
投げ込み式 250 m³/h × 1 台
回収油水槽容量 1,500 m³

ナホトカ号 事故当時

3 船体制での油回収エリア

- 白山
- 清龍丸
- 海翔丸



「白山」は出動してから日本海を24時間以内、北海道周辺海域でも2日以内に到達し回収作業が行えます。さらに名古屋港の「清龍丸」や北九州港の「海翔丸」とともに、油流出事故への体制強化が図られています。